

市長新春トーク



明けましておめでとうございます。今年は1月5日から新しい庁舎で業務を始めさせていただきます。この庁舎で、市民の皆さんとのニーズにしっかりと応えられるよう、職員一同謹んで取り組んでいきたいと思います。

2026

昨年について伺います。まずは何といつても44年ぶりに開催となりました「わたSHIGA輝く国スポーツ」が大きい盛り上がりましたね。

市長 市を挙げて県を挙げてのプロジェクトでした。スポーツというのは、これから時代、市民の皆さん健康や幸せの面で大切なものです。

この大会をきっかけとして盛り上げていくため、一丸となって取り組みました。市民の皆さんもボランティアとして、また多くの企業の方にも協力いただいて、しっかりと形で仕上げることができました。

また、本市で開催されましたトライアスロン競技では、本市のびわ湖トライアスロンに出場し、力を付けてこられた内田選手が男子で優勝を果たし、女子は杉原選手が3位に入りました。さらに滋賀県が天皇杯、皇后杯を獲得できました。本市にとてもうれしい大会になりました。

BIWAKOビエンナーレや文化会館のリニューアル、ふるさと音楽祭など芸術を楽しむイベントも多くあります。

教育分野ではさまざまな事業に取り組まれましたね。

市長 これまで子育ての負担感軽減のため、経済的な面、気持ちの面などいろんな政策を行いましたが、教育は大事な分野だと思います。まず、中学校の部活動では、あらゆる子どもたちにしっかりと機会を保障しようと、国では「部活動の地域展開」を進めていますが、本市では部活動主事を採用させていただき強化しています。なぜそんなことをするかと言えば、子どもたちが生きていく上で、先輩や後輩との付き合い方や、友達と一緒に目標に向かって頑張ることは、人生を歩むうえで大事なことですので、この時期に経験することは必要なことだと思います。スポー

ましたね。

市長 物があふれている今の世の中で、新しい価値を生み出していくには音楽や芸術はすごく大事な分野だと思っています。市民の皆さんや子どもたちができるだけ良いものに触れていただける機会を作りたいと思います。BIWAKOビエンナーレは非常にクオリティが高く、いろんな方に見ていただいたと思います。また、ふるさと音楽祭では一流の音楽を街角で、肩肘張らずに聞いてもらえる機会を作らせていただきました。

文化会館はずいぶん老朽化してて、エレベーターや洋式トイレが無いなどの就任当時からの課題を解決させていただきました。皆さんに使ってもらうと同時に、新しい企画をしてしまって、いろいろ芸術に触れていただきたいです。クラシックなものもあればポップなもの、アイドルなども含め、いろんなジャンルのものがあつて、本市が楽しいまちになるように、芸術の分野に力を入れてきたのが形になりました。

ツだけではなくて、音楽もあり、今年度からデータサイエンス入門クラブを作らせていただきましたが、科学の分野も含め、いろんなことを経験してほしいと思います。

他にも小学校では中学年から教科担任制を採用しています。部活動と併せて、学校の先生方の働き方改革にも関わってきますが、先生が楽になることのみを目指しているので

はなく、子どもたちと先生が向き合う時間をしっかりと確保し、一人一人に合ったアドバイスや指導をしていただけるような環境を整えさせていただきました。このようなことに力を入れないと、地域は伸びていかな

いと思います。

近江八幡市広報番組
「テレはち」半ヤスター
片山 むつみ

小西 理

近江八幡市長

BIWAKO BIENNALE2025

リニューアルした文化会館で第1回ふるさと音楽祭

「わたSHIGA輝く国スポーツ」障スポ

トライアスロン競技で内田選手がトップでフィニッシュ

部活動指導員による熱意ある指導（八幡東中学校吹奏楽部）



BIWAKO BIENNALE2025



リニューアルした文化会館で第1回ふるさと音楽祭



「わたSHIGA輝く国スポーツ」
トライアスロン競技で内田選手がトップでフィニッシュ



部活動指導員による熱意ある指導（八幡東中学校吹奏楽部）



「教育分野の取り組み」

今後の取り組みや展望についてお聞かせください。

市長 常々、「まちづくりは人づくり」と言っています。教育分野に力を入れて、子どもたちにできるだけ多くの体験の機会を設けたいと思います。世の中でこんなことが行われるとか、こんなものがあるんだと、本当のものを知つてほしいし、知つてもらう機会を設け、この地域で実際に経験して、生き抜く力を身に付けることができると思って、部活動の保障も含め、子どもたちが自分たちの思いを形にする支援のようなことができればいいと思います。「子は宝」と言われるよう、これから時代を担う世代に本市のことを好きになってもらつて、思う存分に自分の夢を描いてもらえるようになってくれるといいなと思います。



松前町近江八幡市中学生交流事業（北海道松前町）
～松前町のまちづくりに関わっている人にインタビュー～

学校連携プロジェクト
～書道やダンス、音楽など
さまざまな芸術を体験～



子どもたちに 本物を知る機会を

「循環型社会の取り組み」

市長 昨年は「オーガニックビルッジ宣言」、令和3年には「気候非常事態宣言」をさせていただき、我々地方自治体も持続可能な社会を実現していくために行動していかなければいけません。なかなか難しいテーマであり、まずは宣言をすることから入りましたが、ゼロカーボンシティの実現に向けて、昨年度および今年度は省エネ家電製品の買換え補助やLED照明買換え補助などさまざまな事業を行っています。事業をきっかけに市民の皆さんに環境に対する意識を高めてもらいたいと思います。さらに今は、米が非常に値上がりしていますが、輸入に頼る資材や燃料などが高騰して、農家が大変だことがあります。先行き不透明な状況ですが、海外に依存しない循環型社会に出来る限り近づきたいです。「強靭な」「変化に強い」「いつも安心」というまちを作つていきたいと思います。

（株）ABC Cooking Studioと連携協定を締結
地域食材の魅力向上、食を活用した持続可能な地域づくりを推進

丁字麺を使った
ブルスケッタとティラミス
(レシピは市公式インスタで)

QRコード

「災害に対する備え、危機対応力の強化」

市長 昨今は気象災害の激甚化や、東南海地震の切迫などいろいろなことが求められています。災害に対する備えをどこまですればいいかは難しいですが、災害は避けられないものとし、出来るだけ復旧をスマートにする、次災害を起ことしないなどの準備をすすめたいと思っています。具体的には、暑さ対策として避難所の空調設備、福祉避難所の整備、さまざまな備蓄関連の見直し、個別避難計画の作成など項目挙げればきりがないですが、この部分を積極的に取り組むことが優先分野だと思います。



はちまんフェスタ 2025

まち歩きマルシェ (YOASOBI)in 安土

Various Values OMIHACHIMAN 2025

「公助×共助×自助」バランスが 地域を強くする



今年の抱負と市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

市長 今、社会は非常に激変している状況です。地方自治体が喫緊の課題として抱えている「少子高齢化」。これは地域の絆の希薄化、地域の担い手の減少などさまざまなもので大きな影響がでています。併せて危機対応でお話させていただいたようになりますが、いつも申し上げてる「公助」「共助」「自助」のバランスをしっかりと考えていく、これが求められることが多いことが起っています。このようないい状況にどのように対応していくかですが、いつも申し上げてる「公助」「共助」「自助」のバランスをしっかりと市民の皆さんと一緒に課題を乗り越えていくことで、本市を発展させていければと思ってます。ぜひ、いろんな立場でお力をいただければあります。

※この特集記事は、ZTVで1月1日10日に放送する市広報番組「テレはち」の内容を基に編集しています。